

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@maff.go.jp



No.1151 2016年2月号

四国森林・林業研究発表会を開催

63回を迎えた研究発表会は、当森林管理局・各署等のほか教育機関、自治体、各研究機関等から民国連携した取組や自然保護、ニホンジカによる食害対策など20課題が発表されました。【詳細は2頁】



「山に遊び 山に学ぶ」
高知県立四万十高等学校の発表

四国森林・林業研究発表会を開催

〈技術普及課〉



一月二一日、四国森林管理局大会議室において、「平成二七年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

まず、大山局長から「発表される課題は、森林整備、木材利用を始め、治山、ニホンジカ食害対策、森林環境教育など多くの今日的課題についての研究成果であり大変有意義な内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくりなどに反映されることを期待します。特に、今回の特徴として、

発表の内容は勿論のこと、パワーポイントに動画を挿入するなど聴講者に分かり易い配慮が見受けられました。聴講者は、局署等職員はもとより民間事業者、自治体、研究機関や学生など多数の方々の来場がありました。

会場ロビーには、局署等の広報誌や発表課題の詳細版（安芸署）、平成二七年度「四国山の日賞」受賞団体パネルなどを展示し、「森林環境教育における木工教室の見本」については、訪れた方々が手に取るなどひとときの休息を与えていました。今回、新たにプレゼントシート（発表者と聴講者が繋がり、振り返るもの）も備え、聴講者に課題ごとに記入して頂きました。後日、

このシートは各発表者に送付しました。

審査の結果、四国森林管理局長賞として七課題（最優秀賞一課題、優秀賞三課題、奨励賞三課題）が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

また、日本森林技術協会理事長賞、日本森林林業振興会会長賞としてそれぞれ一課題選出され、表彰状が授与されました。

最優秀賞に輝いた嶺北森林管理署の発表は、ニホンジカ生息調査・捕獲駆除対策について、職員の目撃情報等の共有や民有林・地元猟友会等との連携による取組などと合わせ高く評価されました。

発表者、聴講者はもとより、開催にあたりご協力頂

きました方々に感謝いたします。ありがとうございます。

※各発表者への贈り物「プレゼントシート」に対する感想をいただいていますので一例を紹介します。

『聴講された方からのプレゼントシートをいただきました。初めての発表で内容の完成度、発表態度など様々な不安を抱えながらの発表でした。プレゼントシートには、気になっていた「声の大きさ」や「原稿をできるだけ見ずに話す工夫」を良かった点としてあげていただいております、内心ほっとしました。また、取組み内容については、今後も継続して行わなければならない課題であるため、

今後の方向性など様々なアドバイスを書いてあり、大いに参考になりました。今後は、このプレゼントシートが良かった点で埋まるよう努力していきます。』とのことでした。

なお、今回の発表課題と審査結果は一〇頁から一一頁のとおりです。

各受賞者の皆様

【四国森林管理局長賞】

●最優秀賞

嶺北森林管理署

森林技術指導官

鶴内 和典 氏



●優秀賞

高知中部森林管理署

別府森林事務所

森林官 小松 大高 氏



●優秀賞

香川森林管理事務所

森林技術指導官

鷹野 孝司 氏



●優秀賞

四万十森林管理署

森林整備官

酒井 克馬 氏 (左側)

植村木材有限会社

事業部長

中平 博文 氏 (右側)



●奨励賞

高知大学農学部

四回生 青木 遙 氏



●奨励賞

高知県立高知工業高等学校

建築科三年生の発表者の皆様



●奨励賞

高知県立四万十高等学校

自然環境コースの発表者の皆様



【日本森林技術協会理事長賞】

森林整備課

路網整備係員

佐野 友紀 氏 (右側)

路網計画係員

東別府 省伍 氏 (左側)



日本森林林業振興会長賞
愛媛森林管理署

西条・石鎚森林事務所
地域統括森林官

森本 吉男 氏 (左側)
係 員

西川 大貴 氏 (右側)

森林保護員

別宮 隆英 氏 (中央)



「請負事業体の労働災害

防止に係る安全会議」の開催

〔総務課〕

二月三日、四国森林管理局大会議室において、「請負事業体の労働災害防止に係る安全会議」を開催しました。

実績のある事業体及び立木販売買受者である八九の事業体等から二〇三名の参加がありました。

この会議は、四国森林管理局管内の請負事業等の実施に当たり、発注者・事業主・現場従業員が労働安全の確保を共通の認識とし、重大災害の撲滅はもとより、労働災害の未然防止を期することを目的として開催したものです。

当日は、当局管内で平成二七年度に請負事業の契約

害の概要と類似災害防止対策」等の説明を行い、続いて担当課長より、「四国森林管理局で発生した重大災害等を踏まえた類似災害防止対策」、「林業・木材製造業労働災害防止規程の改正概要」等の説明を行った後、「労働安全確保に係る意見

交換」を実施しました。最後に、門田労働衛生コンサルタント事務所の門田義彦氏より「林業の労働安全衛生の推進について」と題して講演をいただき、経営トップの労働安全衛生に関する責任と義務について説明していただきました。

当局では、今回実施した「請負事業体の労働災害防止に係る安全会議」を契機として、重大災害の撲滅はもとより、労働災害の未然防止に向け、取り組む決意を改めて確認し会議を終了しました。



労働災害防止講習会

二部門で受賞！「林野庁長官賞優秀賞 (森林保全部門)」、「日本林政ジャーナ リストの会会長賞(森林技術部門)」

国有林野事業業務研究発表会

〈技術普及課〉

平成二七年度国有林野事業業務研究発表会が一二月一〇日、林野庁において開催されました。

今回は、四国森林管理局から三部門に各一課題ずつ発表しました。

発表しました。

○森林技術部門では、

「かかり木の安全対策について」を愛媛森林管理署

業務グループ 水田森林整

備官、武市係員が発表し、

日本林政ジャーナリストの

会会長賞を受賞しました。

○森林ふれあい部門では、

「名勝・入野松原の再生―地域連携による取組―」を

四万十森林管理署 浮鞭森

林事務所 林森林官、十和

森林事務所 中村森林官が

発表しました。

○森林保全部門では、

「囲いわなによる効率的な

シカ捕獲及び普及」を森林

技術・支援センター 芹口

業務係長が発表し、林野庁

長官賞優秀賞を受賞しまし

た。

なお、今回の研究発表会

の内容等については、林野

庁において発表集が作成された後、各署等へ配布する予定です。
今後とも森林・林業に対する多様なニーズに応えていくため、各署等においては技術開発等の取組を一層推進されるよう期待しています。



【林野庁長官賞 優秀賞受
賞】

森林技術・支援センター
芹口竜一氏

【日本林政ジャーナリストの
会会長賞受賞】
愛媛森林管理署
武市 泰典氏(右側)
水田 英司氏(中央)



【森林ふれあい部門発表者】
四万十森林管理署
中村 正史氏(右側)
林 美樹也氏(左側)



「介良の祭り」で森林の大切さをPR

〈技術普及課〉



一月二四日、高知市立介良小学校において、森林教室と木工教室を実施しました。

これは、介良小学校から、

親子が参加するイベント
「ふれあい参観日・介良の祭り」の体験学習コーナーの一つとして、木工制作の体験活動を通じて森林への

クイズ形式の森林教室、正解は？



理解を深めさせたいと、当局に森林・木工教室の依頼があったもので、昨年に引き続き続いての参加となりました。

当日は、地域の方々の協力で、二二の体験コーナーが設けられ、森林・木工教室には二〇組の親子等の参加がありました。

はじめに、クイズにより

木に親しみを持つてもらうための学習を行い、理解を深めてもらいました。全問正解者はいなかったものの、一〇問中八問の正解者が三名いました。

木工は、四年生から六年生の高学年の参加のためか、作成

する子どもを見守る父兄が少なかつたです。しかし、後半になると丁寧に仕上げようとしていた児童が、時間がないと慌てて、父兄を呼んできて仕上げの色を何色にするか、などと相談しながら一生懸命完成させる姿が見られました。



木工教室、皆さんうまくできるかな。

したが、ほとんどの子が時間にも余裕を持って、ジーセミまで作製することができました。

「色塗りが大変だった。」

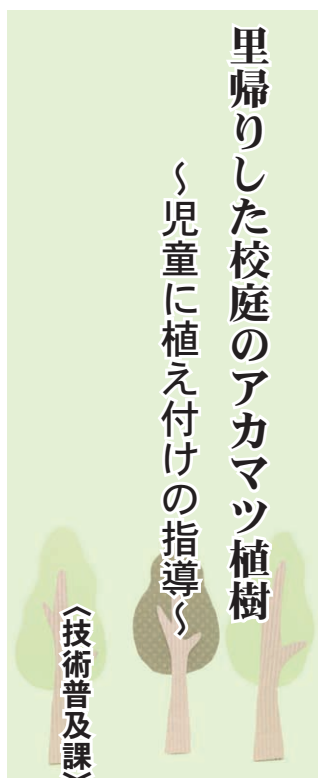
「楽しかった。」などの感想を聞きましたが、自分が気に入った作品だけに、どれも、素敵な仕上がりとなりました。

毎年この教室を選んでくれている児童が数人いて、こちらマンネリ化することなく、創意工夫して取り組まないといけないと、気が引き締まる思いと同時に

に、これからです、木に触れることによって森林や林業に関心をもち、大切に思う気持ちが児童に浸透してくれることを願います。

里帰りした校庭のアカマツ植樹

く児童に植え付けの指導く



二月九日、高知市立第六小学校において「里帰りした校庭のアカマツ苗木」の植樹が行われました。

られました。そこで、森林総合研究所林木育種センター関西育種場（以下、関西育種場）が取り組んでいる巨樹・名木等の遺伝資源

一昨年末、第六小学校の校長先生から「校庭に植えられているアカマツ（樹齢百年超）の樹勢が衰えているがどうすれば良いか」との相談が技術普及課に寄せ

のクローン増殖サービスの「林木遺伝子銀行二一〇番」を紹介しました。

昨年一月二九日、関西育種場の指導のもと、このア